

## 令和5年度 北海道文化賞及び北海道文化奨励賞の受賞者について

### ○北海道文化賞及び北海道文化奨励賞について

#### 【表彰の目的等】

北海道の文化の向上発達に関しその功績が顕著なものを顕彰することにより、本道の文化の振興普及に資することを目的として、昭和24年に創設され、令和4年度までに、文化賞234件、文化奨励賞184件を表彰

#### 【表彰の基準】

##### ・北海道文化賞

北海道の芸術、科学、教育その他の文化の向上発達に関しその功績が特に顕著なもの

##### ・北海道文化奨励賞

北海道の芸術、科学、教育その他の文化の向上発達に関しその功績が顕著であって、かつ、今後の活動が期待されるもの

### ○令和5年度 北海道文化賞 受賞者

受賞者名・団体名／生年・設立年／年齢	職業等・代表者名 (居住地・所在地)	活動概要
うかじ しずえ 宇梶 静江 昭和8年生 90歳		<ul style="list-style-type: none"> <li>作家</li> <li>古布絵作家 (白老町)</li> </ul> <p>アイヌの伝統刺繍の技法を基に、古い布を重ね、アイヌに伝わる叙事詩「ユカヲ」を表現する独自の「古布絵(こふえ)」の世界を切り拓くとともに、『シマフクロウとサケ』や『大地よ!—アイヌの母神、宇梶静江自伝』などの著書やアイヌを題材とした詩を発表。全国各地で作品展や講演を行い、アイヌの文化や精神の普及・継承に貢献している。</p>
くしまつ あすか 國松 明日香 昭和22年生 76歳		<ul style="list-style-type: none"> <li>彫刻家 (札幌市)</li> </ul> <p>鉄を素材に自然現象や風景を彫刻で表現することに取り組み、抽象彫刻でありながら都会的で洗練された野外彫刻を数多く生み出している。彫刻に絵画的性格を盛り込んだ独自の作風でオブジェやモニュメント、パブリックアートを多数手がけるほか、小樽市や白老町にアトリエを構え、アートコミュニティづくりにも取り組むとともに、道内の大学や高等専門学校において教鞭を執り、後進育成に携わるなど、本道の美術文化の振興と発展に貢献している。</p>
まつむら たかし 松村 隆 大正15年生 97歳		<ul style="list-style-type: none"> <li>いにしえ文化語り部会会長 (江差町)</li> </ul> <p>「江差フォトクラブ」の創設や地域の文芸誌「江さし草」の発行、「江差追分会館」の設立に尽力するとともに、江差の歴史文化や江差追分に関する著書を多数出版。また、昨年には江差の文化を広く語り継ぐことを目的として「いにしえ文化語り部会」を設立し、廃業したそば屋を活用して地域のさまざまな世代が集い語り合える「語り部茶屋」を開店するなど、現在も精力的に活動を続け、江差地方の歴史文化の継承に貢献している。</p>

\* 敬称略、年齢は令和5年11月1日現在。

○令和5年度 北海道文化奨励賞 受賞者

受賞者名・団体名／生年・設立年／年齢	職業等・代表者名 (居住地・所在地)	活動概要
<p>のせ えいしん 野瀬 栄進</p> <p>昭和46年生 52歳</p>		<p>・ジャズピアニスト ・作曲家 (小樽市)</p> <p>高校卒業後、ジャズピアニストを志し、単身渡米。ニューヨークの音楽大学卒業後も演奏活動を続け、現在はアメリカ、南米、日本などを中心に活動している。作曲家としても活躍しており、氏の創作した曲は、世界最大級の国際作曲コンペである「International songwriting competition」(ISC)で、多数の曲が上位入賞するなど高い評価を受けている。また、札幌交響楽団や静岡交響楽団(クラシック)とのジャンルを超えた共演など、新しい取り組みも行っている。さらに、今般のコロナ禍の中で、オール北海道を描いた『Northern Lights, THE GATE 2018』(CDアルバム)を制作し、全国ツアー等で発信するなど、北海道の音楽文化の普及、向上に貢献している。</p>
<p>もろ ごうしん 茂呂 剛伸</p> <p>昭和53年生 45歳</p>		<p>・縄文太鼓演奏家 (札幌市)</p> <p>平成12年に太鼓演奏家として、ガーナ共和国に1年間移住し、西アフリカで伝統的に演奏されている「ジャンベ」の製作・演奏方法を習得。帰国後、江別市から出土した縄文土器をモチーフとした複製土器とエゾシカ革を用いて太鼓を創案し、「縄文太鼓」と命名、演奏活動を開始。北海道の歴史文化とアフリカの文化が融合した独自の演奏スタイルを確立し、国内外を問わず、精力的に演奏活動を展開。さまざまな音楽家や舞踏家などとも積極的に共演するほか、後進の育成にも取り組むなど、北海道発の芸術文化の普及向上に尽力している。</p> <p>また、一般財団法人縄文芸術文化財団を設立し、世界文化遺産である「北海道・北東北の縄文遺跡群」を始め、縄文文化の情報発信にも貢献している。</p>
<p>やまだ きうん 山田 起雲</p> <p>昭和38年生 59歳</p>		<p>・書道家 (札幌市)</p> <p>23歳で「毎日書道展 毎日賞」を当時最年少で受賞したほか、数々の書道展で入賞を果たす。大学卒業後、中国留学を経て、ベルギーの国立大学で教鞭を執るなど、書道の国際的普及・交流に尽力するとともに、帰国後は、会員数1,000名を超える「書究文化書芸院」の事務局長・理事長として活躍し、現在、札幌市内に書道教室2会場を構え、指導にあたっている。</p> <p>また、多くの書道展の委員などのほか、札幌文化団体協議会の副会長、札幌西区文化団体協議会の会長などの要職も務めており、書道界のみならず、北海道の美術の発展にも大きく貢献している。</p>

\* 敬称略、年齢は令和5年11月1日現在。